

令和2年2月10日
荒川区立第三中学校
校長 清水隆彦

平成30年度～令和元年度 荒川区教育委員会研究指定校、令和元年度、小中一貫教育実践校
研究発表会 参加の皆様へ御礼

荒川区立第三中学校校長の清水隆彦でございます。令和2年2月7日（金）に行わせていただきました研究発表会には、都内はもとより、全国各地から多数の皆様にご来校いただきましたこと厚く御礼申し上げます。また、ご指導いただいた聖心女子大学教授、益川弘如先生、荒川区教育委員、荒川区教育委員会の皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

研究主題「基礎的・汎用的能力を育むアクティブ・ラーニングの在り方」は、平成28年度に設定し、今年で研究4年目の区切りを迎えました。研究の特色は、21世紀型能力の育成を目指し、教科指導でこそキャリア教育の基礎的・汎用的能力育成に重点を置き、授業改善を行うことでした。生徒の主体的な学び、能動的な学びを積極的に進めることは、結果として教科理解へつながるものと考えました。様々な授業改善のための要素や手法を研究することで授業の質を変え、教師主導の受動的な学びから、生徒主体の能動的な学びへ進む、正にアクティブ・ラーニングの在り方を目指しました。

新学習指導要領には、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）、キャリア教育の基礎的・汎用的能力の育成について多くの内容が含まれています。このことは何かの流行でその言葉が登場してきた訳ではなく、世の中の劇的な変化やグローバル化社会に順応できる能力を育成することが求められているのであり、スピード感をもって対処する必要があります。このことは、とくに義務教育段階から強く求められていることを自覚しなくてはならないものと感じています。

研究の捉えは、職場体験等の数々の体験活動を通じて気づく社会で求められる資質・能力をいかに教科学習の中で身につけさせ、確実なものにさせていくのかという点に重点を置いてきたことにあります。研究当初、教科指導においてキャリア教育の基礎的・汎用的能力を育成するという授業改善の具体策はどう進めるべきかを簡単に決められた訳ではありませんでした。

全ての教科で実施する研究授業において、キャリア教育の基礎的・汎用的能力の育成を焦点化し、様々な要素と組み合わせることで、これまでの授業の質を大きく変えられるものと考えました。

キャリア教育の基礎的・汎用的能力(社会人として求められる資質・能力の育成)には、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力の4つの能力があり、この4能力を指導案に位置づけ研究授業を展開していきました。生徒が能動的に学び、興味関心を高めさせる授業改善に向け進んでいきました。

これまでのような知識詰め込み型で一方通行的な学習形態の授業では、授業の質の変容は難しく、現在、求められている21世紀型能力の育成には結びつきにくいと言えます。この4年間、聖心女子大学、益川弘如教授にご指導をいただきながら研究授業を進め、その都度行う協議会を経て指導案を作り直し、次の実践に結びつけるというプロセスを繰り返しました。定期的な生徒への意識調査を実施し、結果分析することで成果の検証を行いました。

この4年間で見られた特徴として、どの学年も1年生時の調査では、入学当初よりも1年生後半の方の自己評価が低くなることでした。小学校と同様の意識では、内容的に難しくなり対応が難しくなること、アクティブ・ラーニングの必要性を強く感じ、自己評価基準が上がったと考えられました。一旦

下がった意識は、その後3年次に向けて大きく上昇傾向を見せました。

4年目の取り組みとして、卒業生への追跡調査があります。卒業生へのアンケート及び聞き取り調査を実施しました。本校で授業改善の要素として取り込んだ①議論型②学校図書館活用③ICT機器活用は、その後の進学先で大きな力として役立っていることがわかりました。卒業生は、在学中に教科で偏ることなく、全ての教科において3つの要素が常に意識された指導に接し、無意識のうちに高い能力を身につけていたことに気づいたようです。このように義務教育段階での学びが、高等学校、大学へとつながることを重視し、これからも授業改革を進める必要性を再確認しました。

本校の研究は、今回の発表会で一区切りを迎えましたが、まだまだ完成形ではなく、日々の実践により精度を上げていくことが課題と感じております。研究の詳細につきましては、可能な限り本校ホームページに掲載したいと思いますし、研究冊子につきましてもご連絡をいただければ対応させていただく所存です。

今回の研究発表会に参加してくださいました多くの皆様に改めて厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

